

## 貯蓄の状況

### 1 概要

(1) 二人以上の世帯の貯蓄現在高は1739万円で、前年に比べ81万円、4.9%の増加

2013年平均の二人以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高(平均値)は1739万円で、前年に比べ81万円、4.9%の増加となった。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値(金額の低い世帯から高い世帯へと順に並べ、ちょうど中央に当たる世帯の値)は1023万円(前年1001万円)となった。また、年間収入は616万円で、前年に比べ10万円、1.7%の増加となり、貯蓄年収比(貯蓄現在高の年間収入に対する比)は282.3%で、前年に比べ8.7ポイントの上昇となった。

このうち勤労者世帯(二人以上の世帯に占める割合51.3%)についてみると、貯蓄現在高の平均値は1244万円で、前年に比べ11万円、0.9%の増加となり、貯蓄保有世帯の中央値は735万円(前年757万円)となった。二人以上の世帯全体と比べると、平均値、貯蓄保有世帯の中央値共に低くなっている。また、年間収入は708万円で、前年に比べ17万円、2.5%の増加となり、貯蓄年収比は175.7%で前年に比べ2.7ポイントの低下となった(表1, 図1)。

表1 貯蓄現在高の推移

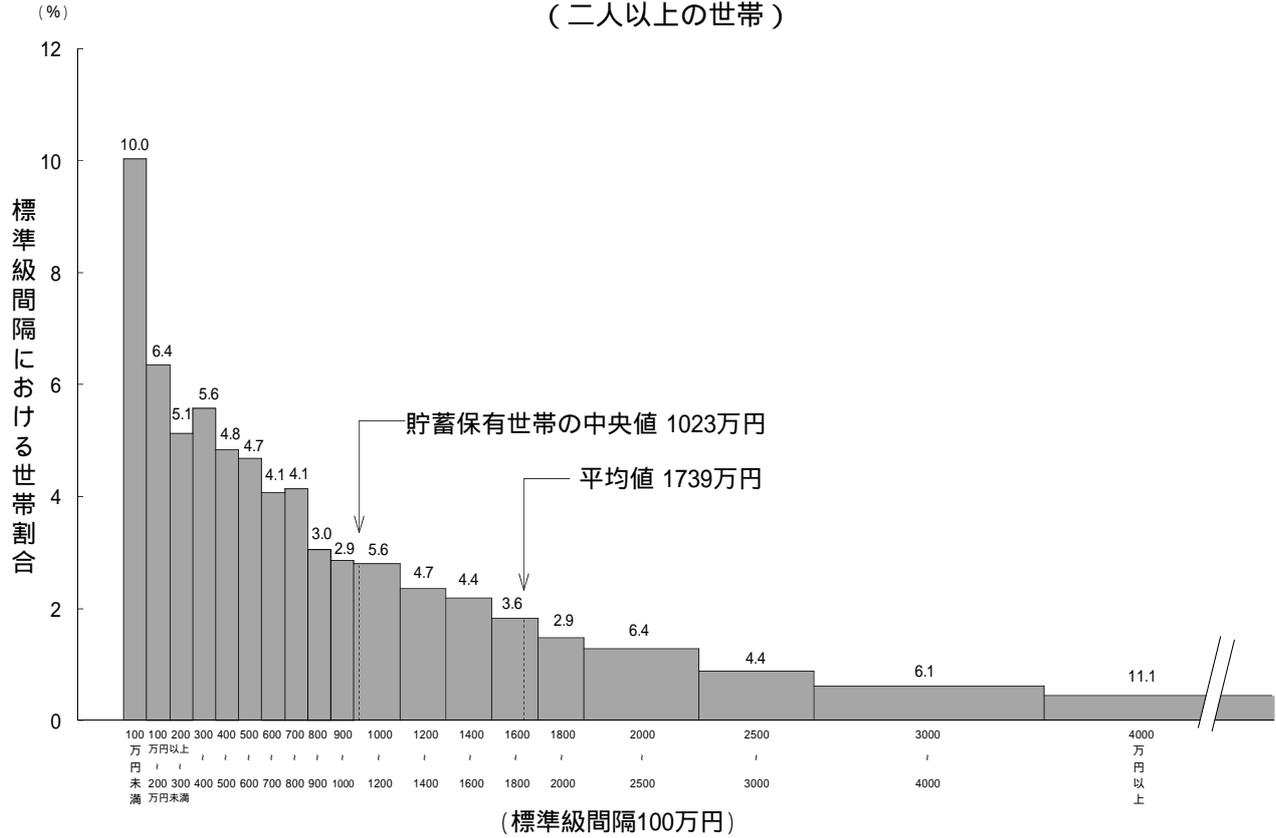
年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	貯蓄保有世帯の中央値 (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
二人以上の世帯						
2002年	1688	683	-	-	247.1	1022
2003	1690	660	0.1	-3.4	256.1	1027
2004	1692	650	0.1	-1.5	260.3	1024
2005	1728	645	2.1	-0.8	267.9	1052
2006	1722	645	-0.3	0.0	267.0	1008
2007	1719	649	-0.2	0.6	264.9	1018
2008	1680	637	-2.3	-1.8	263.7	995
2009	1638	630	-2.5	-1.1	260.0	988
2010	1657	616	1.2	-2.2	269.0	995
2011	1664	612	0.4	-0.6	271.9	991
2012	1658	606	-0.4	-1.0	273.6	1001
2013	1739	616	4.9	1.7	282.3	1023
うち勤労者世帯						
2002年	1280	748	-	-	171.1	817
2003	1292	721	0.9	-3.6	179.2	808
2004	1273	730	-1.5	1.2	174.4	805
2005	1292	719	1.5	-1.5	179.7	807
2006	1264	713	-2.2	-0.8	177.3	772
2007	1268	718	0.3	0.7	176.6	783
2008	1250	717	-1.4	-0.1	174.3	757
2009	1203	709	-3.8	-1.1	169.7	754
2010	1244	697	3.4	-1.7	178.5	743
2011	1233	689	-0.9	-1.1	179.0	729
2012	1233	691	0.0	0.3	178.4	757
2013	1244	708	0.9	2.5	175.7	735

(2) 貯蓄現在高が100万円未満の世帯の割合は10.0%

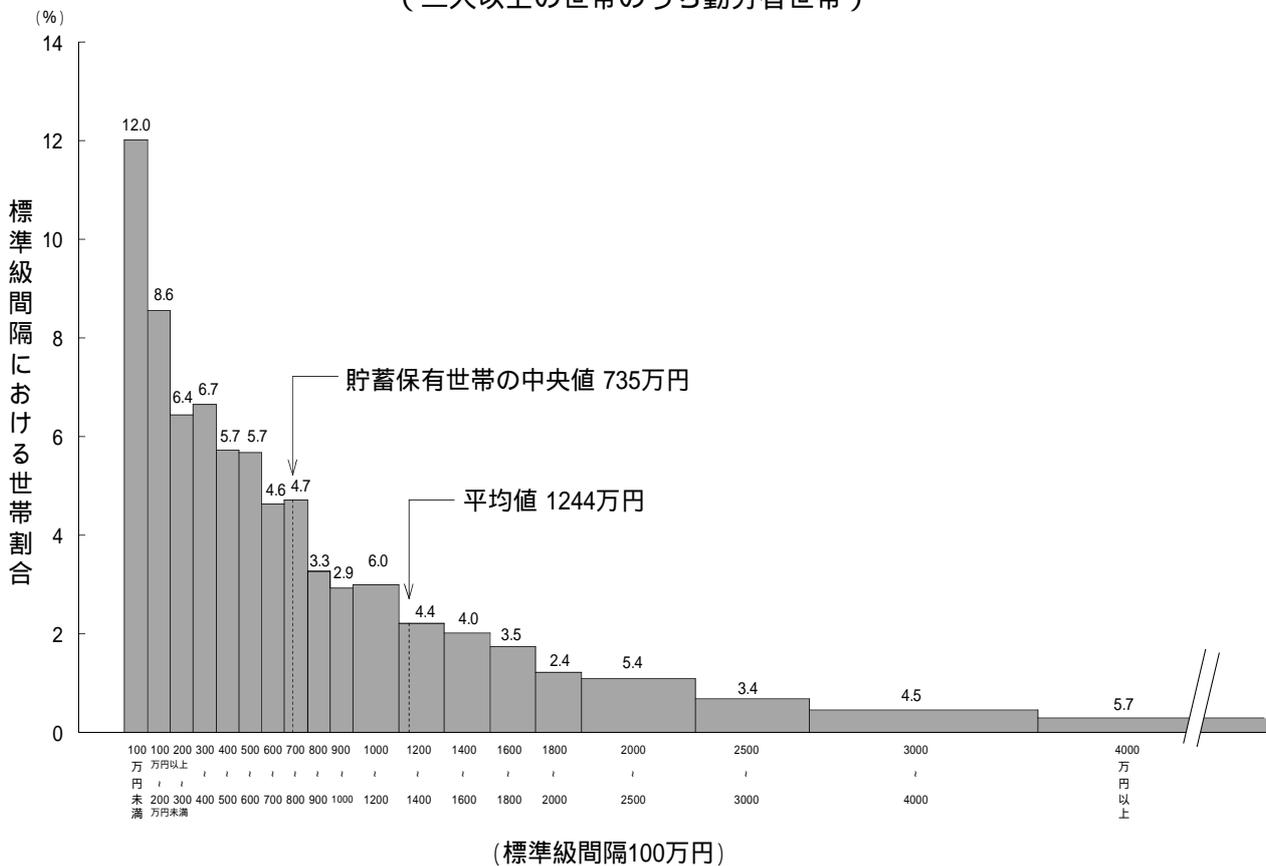
二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値(1739万円)を下回る世帯が68.0%(前年67.2%)と約3分の2を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い階級に偏っている。貯蓄現在高が最も少ない100万円未満の階級が、二人以上の世帯に占める割合は10.0%となっており、前年(10.6%)に比べ0.6ポイントの低下となった。

このうち勤労者世帯についてみると、100万円未満の階級が勤労者世帯に占める割合は12.0%で、前年(12.8%)に比べ0.8ポイントの低下となった(図1)。

図1 貯蓄現在高階級別世帯分布 - 2013年 -  
(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



## 2 貯蓄の種類別内訳

### (1) 二人以上の世帯は有価証券が大幅に増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が724万円(貯蓄現在高に占める割合41.6%)と最も多く、次いで「生命保険など」が379万円(同21.8%)、通貨性預貯金が356万円(同20.5%)、有価証券が240万円(同13.8%)、金融機関外が40万円(同2.3%)となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、定期性預貯金が450万円(同36.2%)と最も多く、次いで「生命保険など」が320万円(同25.7%)、通貨性預貯金が295万円(同23.7%)、有価証券が116万円(同9.3%)、金融機関外が63万円(同5.1%)となっており、二人以上の世帯と同様の順になっている。

2012年と比べると、定期性預貯金は、二人以上の世帯では同水準となっているが、勤労者世帯では減少となっている。年金商品を含む「生命保険など」は、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に増加となっている。通貨性預貯金は、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に増加となっており、特に勤労者世帯は調査を開始した2002年以降11年連続の増加となっている。有価証券は、安倍内閣が進めた経済政策(いわゆる「アベノミクス」)により、株高<sup>(注)</sup>が進んだことなどから、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に増加となっており、特に二人以上の世帯は24.4%と大幅に増加となっている(表2、図2)。

(注) 日経平均株価は41年ぶりの上昇率(終値 2012年12月28日: 10,395.18円 2013年12月30日: 16,291.31円 ..... 57%)

表2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移

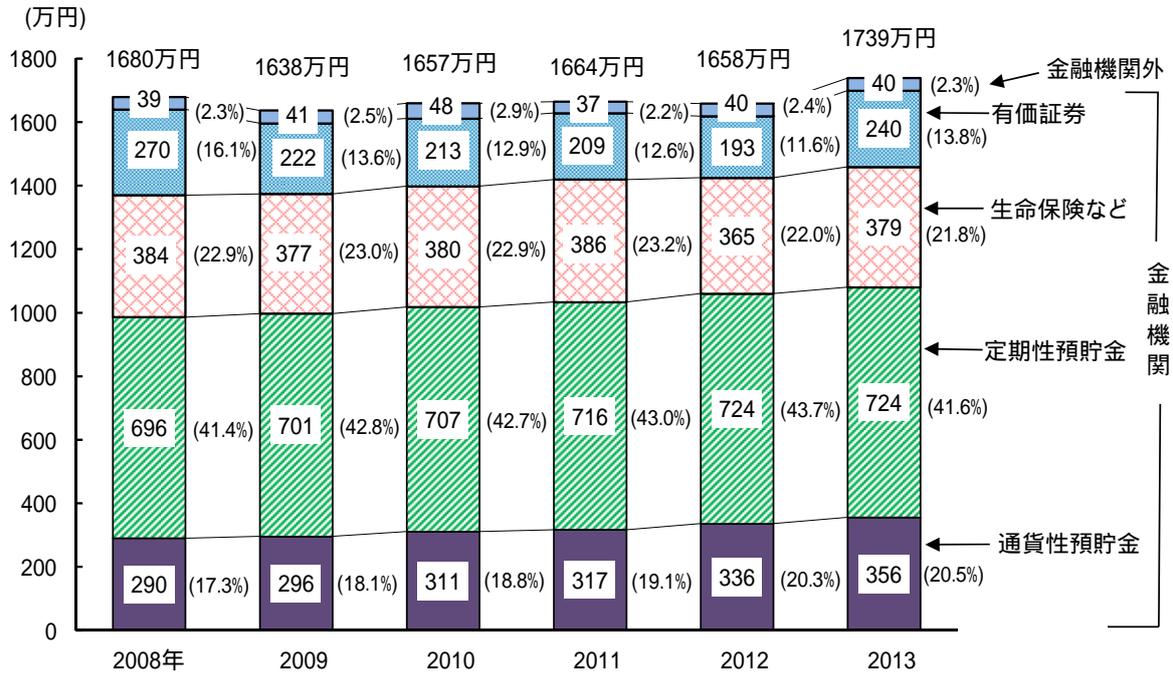
項目	二人以上の世帯																	
	2008年			2009年			2010年			2011年			2012年			2013年		
	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)															
貯蓄現在高	1680	100.0	-2.3	1638	100.0	-2.5	1657	100.0	1.2	1664	100.0	0.4	1658	100.0	-0.4	1739	100.0	4.9
金融機関	1640	97.6	-2.3	1597	97.5	-2.6	1610	97.2	0.8	1627	97.8	1.1	1618	97.6	-0.6	1699	97.7	5.0
通貨性預貯金	290	17.3	-0.7	296	18.1	2.1	311	18.8	5.1	317	19.1	1.9	336	20.3	6.0	356	20.5	6.0
普通銀行等	217	12.9	0.5	222	13.6	2.3	237	14.3	6.8	244	14.7	3.0	259	15.6	6.1	280	16.1	8.1
郵便貯金銀行	73	4.3	-3.9	74	4.5	1.4	73	4.4	-1.4	73	4.4	0.0	77	4.6	5.5	76	4.4	-1.3
定期性預貯金	696	41.4	-1.6	701	42.8	0.7	707	42.7	0.9	716	43.0	1.3	724	43.7	1.1	724	41.6	0.0
普通銀行等	470	28.0	0.6	477	29.1	1.5	485	29.3	1.7	498	29.9	2.7	504	30.4	1.2	515	29.6	2.2
郵便貯金銀行	226	13.5	-5.8	224	13.7	-0.9	222	13.4	-0.9	218	13.1	-1.8	221	13.3	1.4	210	12.1	-5.0
生命保険など	384	22.9	-6.8	377	23.0	-1.8	380	22.9	0.8	386	23.2	1.6	365	22.0	-5.4	379	21.8	3.8
有価証券	270	16.1	0.4	222	13.6	-17.8	213	12.9	-4.1	209	12.6	-1.9	193	11.6	-7.7	240	13.8	24.4
株式・株式投資信託	171	10.2	-6.0	139	8.5	-18.7	134	8.1	-3.6	134	8.1	0.0	126	7.6	-6.0	161	9.3	27.8
貸付信託・金銭信託	15	0.9	7.1	13	0.8	-13.3	11	0.7	-15.4	12	0.7	9.1	10	0.6	-16.7	12	0.7	20.0
債券・公社債投資信託	85	5.1	16.4	70	4.3	-17.6	68	4.1	-2.9	63	3.8	-7.4	57	3.4	-9.5	67	3.9	17.5
金融機関外	39	2.3	-2.5	41	2.5	5.1	48	2.9	17.1	37	2.2	-22.9	40	2.4	8.1	40	2.3	0.0

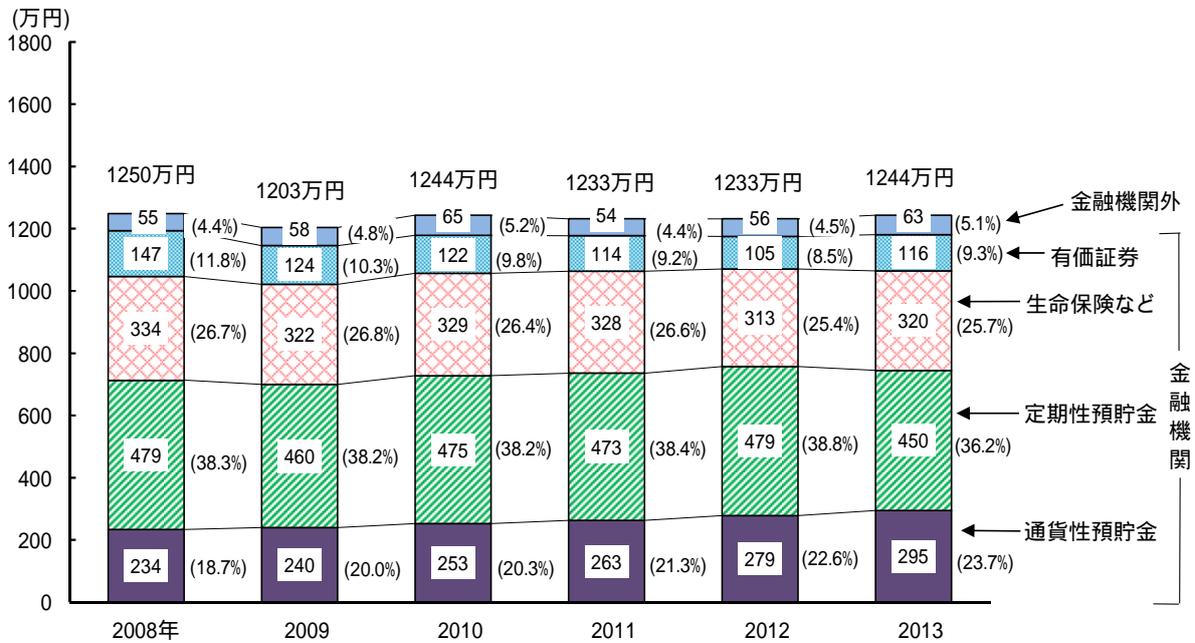
項目	うち勤労者世帯																	
	2008年			2009年			2010年			2011年			2012年			2013年		
	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)															
貯蓄現在高	1250	100.0	-1.4	1203	100.0	-3.8	1244	100.0	3.4	1233	100.0	-0.9	1233	100.0	0.0	1244	100.0	0.9
金融機関	1195	95.6	-1.4	1145	95.2	-4.2	1179	94.8	3.0	1179	95.6	0.0	1177	95.5	-0.2	1181	94.9	0.3
通貨性預貯金	234	18.7	0.9	240	20.0	2.6	253	20.3	5.4	263	21.3	4.0	279	22.6	6.1	295	23.7	5.7
普通銀行等	177	14.2	1.7	182	15.1	2.8	199	16.0	9.3	204	16.5	2.5	216	17.5	5.9	231	18.6	6.9
郵便貯金銀行	57	4.6	-1.7	57	4.7	0.0	54	4.3	-5.3	59	4.8	9.3	63	5.1	6.8	64	5.1	1.6
定期性預貯金	479	38.3	1.7	460	38.2	-4.0	475	38.2	3.3	473	38.4	-0.4	479	38.8	1.3	450	36.2	-6.1
普通銀行等	317	25.4	6.4	301	25.0	-5.0	317	25.5	5.3	322	26.1	1.6	329	26.7	2.2	309	24.8	-6.1
郵便貯金銀行	163	13.0	-5.8	158	13.1	-3.1	157	12.6	-0.6	151	12.2	-3.8	150	12.2	-0.7	141	11.3	-6.0
生命保険など	334	26.7	-6.2	322	26.8	-3.6	329	26.4	2.2	328	26.6	-0.3	313	25.4	-4.6	320	25.7	2.2
有価証券	147	11.8	-4.5	124	10.3	-15.6	122	9.8	-1.6	114	9.2	-6.6	105	8.5	-7.9	116	9.3	10.5
株式・株式投資信託	94	7.5	-9.6	75	6.2	-20.2	76	6.1	1.3	77	6.2	1.3	67	5.4	-13.0	80	6.4	19.4
貸付信託・金銭信託	8	0.6	-11.1	11	0.9	37.5	6	0.5	-45.5	7	0.6	16.7	5	0.4	-28.6	6	0.5	20.0
債券・公社債投資信託	45	3.6	9.8	38	3.2	-15.6	39	3.1	2.6	30	2.4	-23.1	33	2.7	10.0	29	2.3	-12.1
金融機関外	55	4.4	-1.8	58	4.8	5.5	65	5.2	12.1	54	4.4	-16.9	56	4.5	3.7	63	5.1	12.5

図2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移

(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



注) ( )内は、貯蓄現在高に占める割合

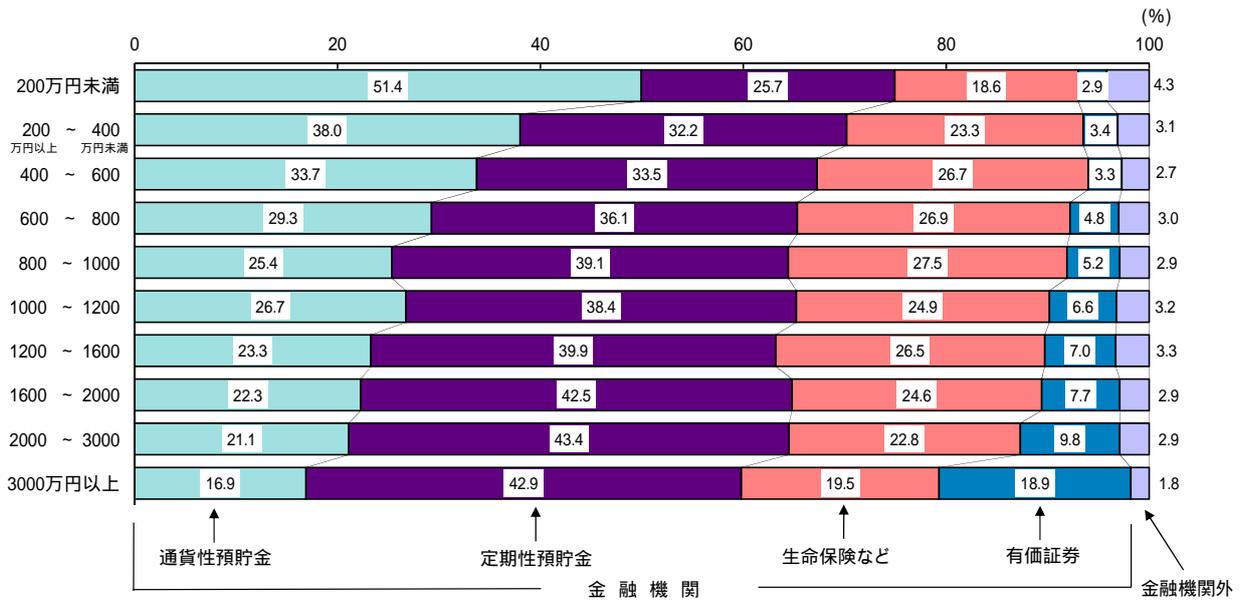
(2) 貯蓄現在高が3000万円以上の世帯の有価証券の割合は約2割

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に貯蓄の種類別割合をみると、貯蓄現在高が少ない世帯ほどおおむね通貨性預貯金の割合が高く、貯蓄現在高が多い世帯ほどおおむね定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなっている(表3, 図3)。

表3 貯蓄現在高階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高(二人以上の世帯) - 2013年 -

項目	平均	200万円未満	200万円以上 ~400万円未満	400~600	600~800	800~1000	1000~1200	1200~1600	1600~2000	2000~3000	3000万円以上
金額(万円)											
貯蓄現在高	1739	70	292	487	692	890	1088	1387	1780	2422	5682
金融機関	1699	68	283	474	671	865	1053	1342	1728	2351	5580
通貨性預貯金	356	36	111	164	203	226	291	323	397	511	962
定期性預貯金	724	18	94	163	250	348	418	554	757	1051	2435
生命保険など	379	13	68	130	186	245	271	368	437	553	1108
有価証券	240	2	10	16	33	46	72	97	137	237	1075
金融機関外	40	3	9	13	21	26	35	46	52	71	102
(参考)年間収入	616	478	539	567	606	609	626	647	652	670	765
構成比(%)											
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	97.7	97.1	96.9	97.3	97.0	97.2	96.8	96.8	97.1	97.1	98.2
通貨性預貯金	20.5	51.4	38.0	33.7	29.3	25.4	26.7	23.3	22.3	21.1	16.9
定期性預貯金	41.6	25.7	32.2	33.5	36.1	39.1	38.4	39.9	42.5	43.4	42.9
生命保険など	21.8	18.6	23.3	26.7	26.9	27.5	24.9	26.5	24.6	22.8	19.5
有価証券	13.8	2.9	3.4	3.3	4.8	5.2	6.6	7.0	7.7	9.8	18.9
金融機関外	2.3	4.3	3.1	2.7	3.0	2.9	3.2	3.3	2.9	2.9	1.8
構成比の対前年変化幅(ポイント)											
貯蓄現在高											
金融機関	0.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.6	-0.5	-0.2	-0.1	-0.1	0.2
通貨性預貯金	0.2	-1.5	-0.5	0.7	-0.5	-1.9	2.7	-0.8	1.3	1.2	0.2
定期性預貯金	-2.1	2.2	2.7	-1.3	1.4	-0.9	-1.5	-1.5	2.3	-1.2	-3.5
生命保険など	-0.2	-2.0	-3.8	1.4	-2.0	2.5	-2.9	0.9	-3.9	-0.3	0.4
有価証券	2.2	1.4	1.7	-0.4	1.2	0.9	0.9	1.1	0.3	0.1	3.1
金融機関外	-0.1	1.4	0.3	-1.0	0.0	-0.5	0.5	0.3	0.1	0.2	-0.2

図3 貯蓄現在高階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯） - 2013年 -



### 3 貯蓄現在高階級別世帯及び貯蓄の分布状況

4000万円以上の貯蓄を保有する世帯は全体の約1割で，総貯蓄額の約4割を保有

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に世帯割合をみると，500万円未満の世帯が最も多く，2013年は全体の31.9%となっており，これらの世帯の貯蓄額の割合は総貯蓄額の3.7%となっている。また，4000万円以上の世帯は全体の11.1%となっており，これらの世帯の貯蓄額の割合は総貯蓄額の44.0%となっている。

前年と比べると，貯蓄現在高が500万円未満の世帯は，世帯割合及び総貯蓄額に占める貯蓄額の割合共にほぼ横ばいとなっている。また，貯蓄現在高が4000万円以上の世帯は，世帯割合は0.7ポイントの上昇，総貯蓄額に占めるこれらの世帯の貯蓄額の割合は3.3ポイントの上昇となっている(図4)。

図4 貯蓄現在高階級別世帯及び貯蓄の分布状況の推移（二人以上の世帯）

